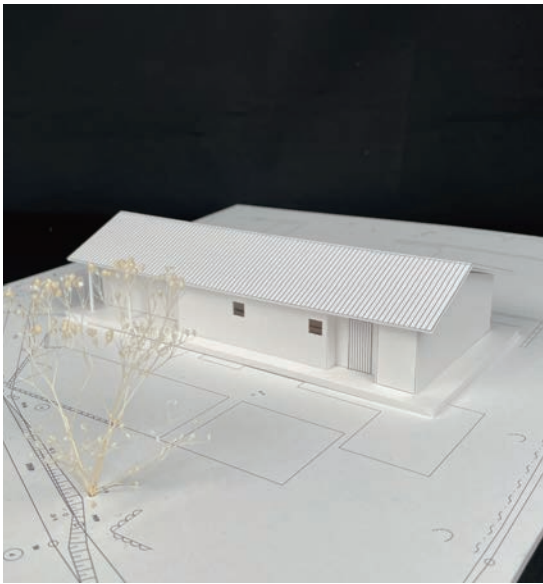
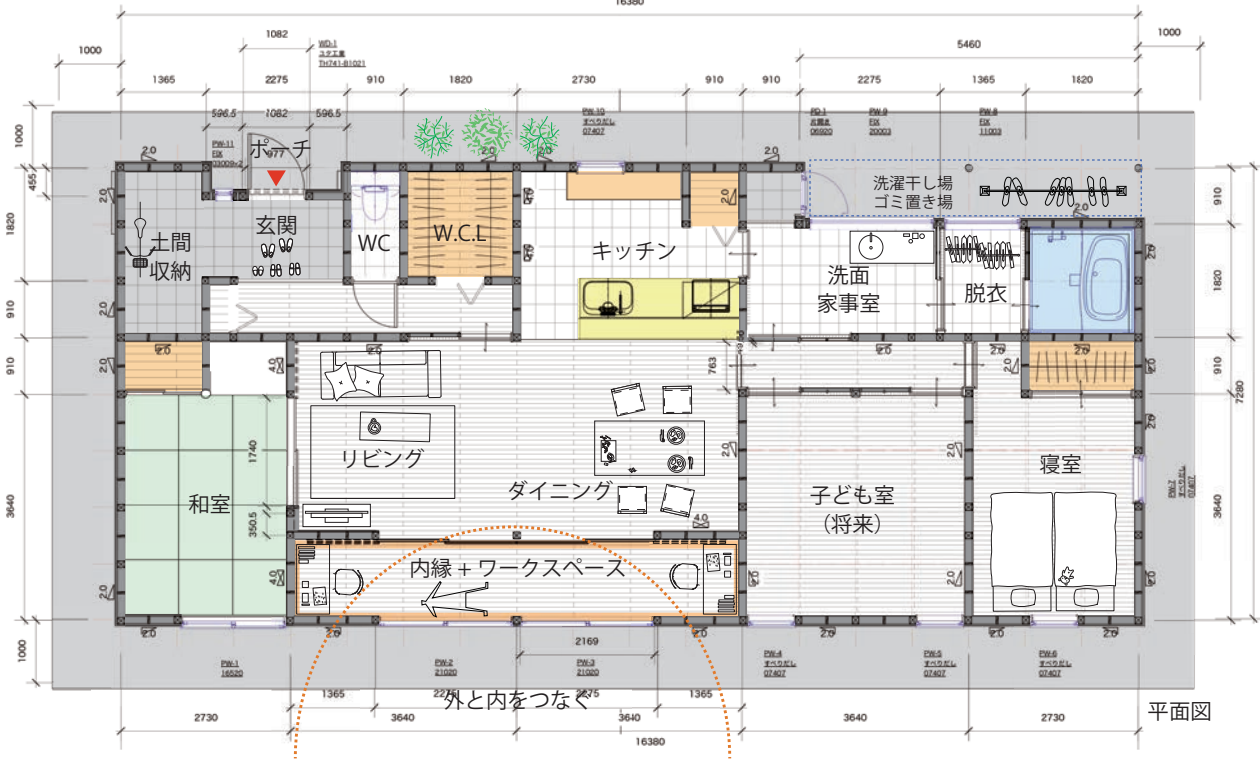
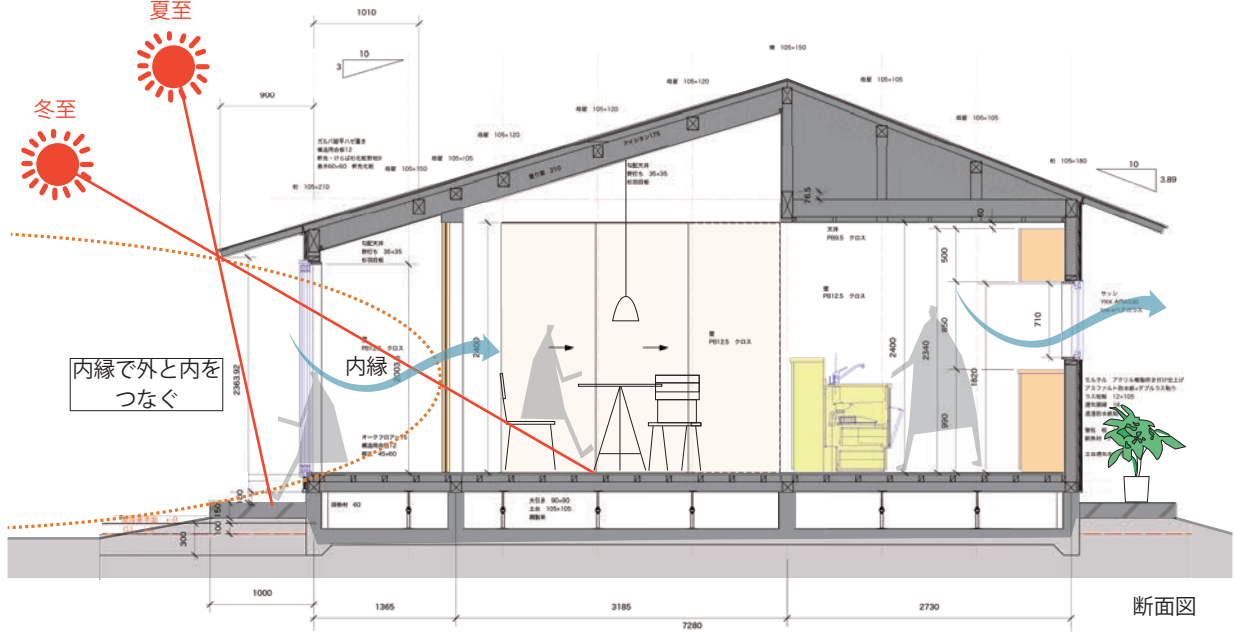




写真（左）：リビング・ダイニング・内縁が一体となって伸びやかな空間を創出している。 写真（右上）：内縁での日向ぼっこが気持ちよい。 写真（右下）：徹底的にシンプルなデザインを試みている。



模型写真



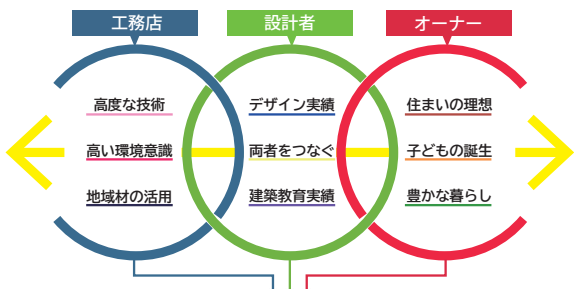
断面図

〔建築概要〕
 主要用途：住宅
 所在地：神戸市西区神出町宝勢字七反場 735 番 1、4985 番
 家族構成：4 名（子ども 2 名）
 敷地面積：1,029.47 m²
 建築面積：120.22 m²
 延床面積：113.24 m²
 構造：木造（軸組工法）

育てる平屋の3つの特徴

「ある若い夫婦」の物語

20代のある若い夫婦が理想とする豊かな住環境を求めて、土地探しからスタートした約3年間に渡る住まいのプロジェクトです。2人の職場のある都心部にもアクセスでき、かつ自然のなかでゆったりと暮らすことのできる地を求めて、1年以上かけて神戸市西区の田園地区に理想の土地を得ました。この敷地の周りに広がる田園や山の稜線を望みながら、移り行く四季の変化の中で幸せに暮らしたいという想いを実現するため、その理念に共感した設計者と工務店のチームが一体となってプロジェクトが進行していきました。自然に囲まれた広大な敷地にふさわしい住まいとは何か、という問いにチームが真剣に向きあった末に出た結論は、奇をてらったデザインやモノにあふれた暮らしではなく、シンプルであたりまえの暮らしのなかで夫婦の成長とともに寄り添える住処を追究することという考えにいたりました。このようにしてスタートした、ある若い夫婦と新しい命の誕生を迎えた家族の物語です。



「育てる平屋」の未来をつくる！



「足るを知る」という豊かさ

私たちは、1,000㎡を超える敷地に小さな平屋を計画しました。そのデザインを極限までシンプルにして徹底的な無駄を省きました。ただし、シンプルは単純という意味ではありません。軒は限りなく薄く軽快に見せる工夫を施し、屋根を極限まで低く抑え、美しい平屋のデザインに挑戦しています。また、開口部は必要なところに必要な大きさに設けて無駄をなくしています。そして、軸組や化粧材は兵庫県産木材をふんだんに使用し、木の存在感を感じられるように家族の集まるリビングや内縁はとくに木に囲まれた空間づくりを心がけました。また、家の内と外をつなぐ内縁はテレワークスペースと日向ぼっこができる家族のスペースを設けて、日本の住文化の継承と現代生活の価値観に応じた新しい解釈を加えました。妥協のないシンプルなデザインとローコスト、そして兵庫県産の木材を使用した地産地消のこの小さな平屋は「足るを知る」豊かさを持っています。

■使用木材について
土台・柱・垂木に兵庫県産材の桧、梁・桁に兵庫県産材の杉を使用しています。

「育てる平屋」の可能性

プロジェクトの進行中に若い夫婦は新しい家族を迎えました。都市部に容易にアクセス可能でありながら、雄大な自然のなかで自由に遊び・学び・成長することのできる環境は誰しもが手に入れることはできません。この住宅は若い家族がゆっくりと成長することを前提としています。つまり、小さな住処を中心に子どもを育てるように住まいやお庭もできる範囲で育てるという考え方です。1,000㎡を超える敷地にぽつんと建つ小さな平屋は正直言って今は少し寂しく映るかもしれません。若い家族はこの住処を毎年少しずつ手をいれながら長い時間をかけて育てます。まさに「育てる平屋」です。多くの方々は新築時に全てを完成させることが望まれますが、この「育てる平屋」は家族の成長と共に住みこなして、老いても大切に住み続けられる住処として価値を持ちます。また今回のプロジェクトでは若い人材も育っています。兵庫県産材の理解を深めるために、建築を学ぶ大学生と共に丹波市の山に入り木材の流通のしくみなど深く学びながら地域木材の活用を考えています。



設計者は、建築を学ぶ大学生と共に丹波市の地域木材の活用の取り組みを継続的に取り組んでいます。住宅の設計や木のおもちゃの提案などの実践や活用事例の調査研究を行っています。



■外構計画図：長い時間をかけて育てる生活空間の提案